平成二十四年度　昼間部　冬休み前集会　講話

話を始める前にまず皆さんに聞きます。今、昼間部では朝の十分間読書を行っていますが、自分は取り組みが十分ではないと思っている人はその場に腰を下ろしなさい。

座っている人の中には、利用している交通機関の到着時間の関係で、朝読開始時間に間に合わない人もいるのでしょう。しかし、もう一本早いバスやＭＲが利用可能な人は、そうすべきですし、どうしてもそれが無理な人は、朝読の雰囲気をこわさないように静かに教室に入るという、気を遣うことが求められるのです。

それでは、朝読をどうして行うのかもう一度確認しておきましょう。「読書に親しみ、読書する習慣を身につける」「一日の始まりを静寂な中で迎え、スムーズに授業に移行する」「生徒も先生も、同じ時間に同じ事（読書）をすることで一体感を味わう」。これらが朝読の目的なのです。

朝読を実施している学校からは、「読書が好きになった生徒が大幅に増加した」「一つのことを継続して行うことによって、集中力がついた」「いろいろな考えがあるということを知って、他人の気持ちが分かるようになった」「国語力が向上した」「遅刻が減少した」というような効果があったという報告もあります。

昼間部でも「静かな雰囲気で一日の始まりを迎えている」とか「遅刻が減少した」という効果がすでに出てきています。さらに、全員で取り組むことができるような工夫を行いながら、この朝の十分間読書が昼間部の特色として定着するようみんなで取り組んでいきましょう。

さて、三、四年次生は卒業まで残りわずかとなりましたが、現在までに多くの人が志望校に合格したり就職内定をもらったりしています。これまで進路実現に向けて努力を重ねてきたことがこのような良い結果をもたらしているのだと思います。

しかし、「入学した頃は考え方が幼くて、これからの学校生活はどうなるのだろうとか、卒業後は進路先が決まっているのだろうかと不安でした。それが、一年次から二年次、そして三年次へと進むにつれて着実に成長していく姿に感心させられました。将来を見据え、何をしなければならないのか、その自覚が芽生えたのだと思います」と、この三年間三、四年次生を見守ってきた先生方から話を聞いたことがあります。

確かに学年が上がるにつれて、欠席や遅刻が少なくなりました。さらには、今年の体育大会や文化祭での三年次生のリーダーシップは見事なものでした。この成長が自信となって、現在の進路状況を表しているのだと思います。

一、二年次生の皆さんのすぐそばには目標とすべき三、四年次生がいます。「目標に向かって諦めないで努力することの大切さ」「高校生として何をしなければならないのか」「自分の可能性を信じること」など身をもって示してくれました。これら良いところを手本にしてこれからの高校生活をさらに充実させるよう努力してください。

辰年である平成二十四年も残りわずかとなりました。竜が空に向かって勢いよく昇っていくような充実した一年でしたか？　来年は巳年。蛇は成長するために脱皮を繰り返すと言われています。もし、怠け心という固い殻が自分を覆っているのなら、その殻を脱ぎ去る努力をしなければなりません。平成二十五年が今まで以上の素晴らしい年になることを願い、私からの話をおわります。